



農業技術センターニュース

目 次			
単為結果性ナス新系統「試交 60 号」の育成	… 1	ガス環境の調節によりオクラの果実黒斑病を抑制する	… 4
殺菌剤の混用が微生物農薬の効果に及ぼす影響	… 2	‘水晶文旦’の近赤外線非破壊果実分析による糖度向上技術	… 5
点滴チューブを利用したかん水同時施肥法によりグロリオサの施肥窒素量を削減	… 3	茶品種‘べにふうき’の多収穫採法	… 6

単為結果性ナス新系統「試交 60 号」の育成



写真 左：「試交 60 号」

右上：‘竜馬’、右下：‘はつゆめ’

当センターでは、これまでにホルモン処理やハチによる受粉をしなくても果実の肥大する単為結果性ナス品種‘はつゆめ’を育成しました。しかし、‘はつゆめ’は高知ナス慣行品種の‘竜馬’に比べると、品質・収量面での改善点が指摘されていました。このため‘竜馬’と同等の品質と収量を目標にして、‘はつゆめ’の改良に着手し、F₁新系統「試交60号」を育成しました。

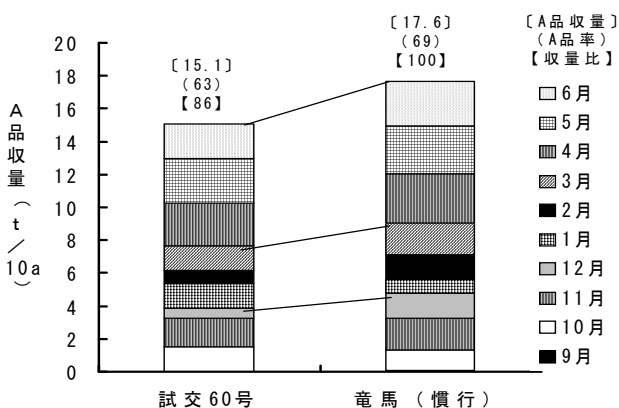


図1 主枝3本仕立てにおける「試交60号」の月別A品収量(2007)

注1) 台木：ヒラナス、栽植方法：うね幅180cm、株間50cm (1,111株/10a)
 2) その他の耕種概要は図1のヒラナスに準じる。

「試交60号」は‘はつゆめ’と同様、10月中～下旬まではホルモン処理が必要ですが、それ以後は無処理でも正常に着果します。果実は、長卵形で、‘竜馬’と比べ、A品率はほぼ同等ですが、収量は約15%低くなります(図1)。

今後は、「試交60号」に適した栽培方法を確立するとともに、さらに収量性を改善した新系統の育成を続けて行きます。

(園芸育種担当 岡田昌久 088-864-4916)